

第6学年 総合的な学習 学習指導案

児童 男子7名 女子19名 計26名
指導者 錦 織 守
場所 パソコン室

1 単元名 ふれ合い 学び合い 人間愛 ～ 12歳の自分発見～

2 単元について

本単元は、12年間の自分を振り返り、将来への夢を抱く子どもを育てることをねらっている。これまでの集大成として、学習してきたことを活動の様々な場でいかしていく。今までの生活を振り返り、人とのかかわりから自分を見つめ直すこと、また、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えることを通してねらいに迫りたい。また、人は人と支え合っていることを理解し、人生の先輩から話を聞くことで、将来の自分への指針とさせたい。

子ども達は、小学校へ入学してから、町探検やキャップハンディ体験・お年よりや障害のある方との交流を通して、自分がたくさんの人とかかわり合っていることを学んできた。人は人と支え合って生きていることを理解し、人とのかかわりの中で相手のことを考え行動する大切さを感じてきている。しかし、感謝の気持ちがあっても、照れや恥ずかしさから素直に表現できない子どももいる。

自分の生き方については、まだ12歳なので、漠然としたイメージを持った子はいらぬものの、ほとんど考えていないという子が多い。

子ども達は一年生の頃から計画的にパソコンを学習してきているので、高い技能をもっている。絵を描くこと、デジタルカメラでの撮影・取り込み・画像処理、キューブプロジェクターを使って簡単なプレゼンテーションや発表資料を作ることなどができる。また、文章はローマ字で入力できる。この技術を生かし、昨年度から行事の写真日記を継続的に作成している。

指導にあたっては、まず、人とのかかわりから自分を見つめ直して自分史を作らせる。その中で、自分の成長には家族が大きくかかわっていることに改めて気づかせ、感謝の気持ちを高めたい。

次に、地域で活躍する人に興味をもたせ、ゲスト・ティーチャーとして招待し講演会を開かせる。人生の先輩として子どもたちへ望むことや自分の成功秘話について講演していただく。その準備の1つとして、地域や家族への案内状をより分かりやすいものにするための工夫をさせていく。パソコンを使えば、それぞれの作品を同時に見ることができ、作品のよさを認め合ったり瞬時に修正したりすることができる。作品の質を高めるための練り合いには有効であると考えられる。

そして、自分の生き方について考えを深めさせ、学んだことを卒業論文としてまとめさせる。将来への夢や思いを交流し合い認め合うことを通して、一人ひとりが家族や地域に愛され大切な存在であるという自覚をもって、卒業を迎えることができるようにさせたい。

3 単元の目標

(1)【課題設定の能力】

- ・これまでの自分を振り返り、今までお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えるためには何ができるか考えることができる。

(2)【課題解決の能力】

- ・講演会に招待したい人を話し合って決め、講演会を成功させることができるように、準備を進めることができる。
- ・今までお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えることができる。

(3)【情報活用能力】

- ・パソコンなどの教育機器を使い、自分史作りや講演会の交渉・準備・まとめをすることができる。

(4)【表現力】

- ・これまでの学習をふり返り、自分自身を見つめ、自分の思いを表現することができる。

4 単元の主な評価基準

平成16年度生活科・総合的な学習年間指導計画 6年 P5参照

5 指導計画(40時間)

平成16年度生活科・総合的な学習年間指導計画 6年 P5~7参照
本時 12/40

6. 本時の指導

(1) 目標【情報活用能力】

- ・自分達が作った案内状をより分かりやすいものに直すことができる。

(2) 研究主題とのかかわり

課題設定段階

- ・より分かりやすい案内状の観点(レイアウト、色の使い方、字の大きさ、写真の使い方)を確認する。
- ・お互いのよさを見つけ合い、より分かりやすい案内状を完成させる学習であることを強調する。

ふり返りの段階

- ・本時の活動について自己評価や相互評価から満足感をもたせる。
- ・意見交換でアドバイスをもらい、より分かりやすい案内状を完成できたことを想起させ、友達への感謝の気持ちをもちたい。
- ・次時の会場作りで準備したいものを問い、講演者への感謝の気持ちをどのように表せばいいかを考えてこようとする気持ちをもたせたい。

(3) 展開

	学習内容と活動	教師の支援(・)評価()	資料他
い だ く 3 分	1 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地域に発信する案内状を完成させよう。</div>	・各自の案内状は画面に呼び出ししておく。	パソコン
	2 より分かりやすい案内状を確認する。 ・レイアウト ・色使い ・字の大きさ ・写真の使い方	・観点を掲示しておく。	紙板書

活動する 50分	3 グループ毎に意見交換をする。 ・よいところ ・もっとよくするためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーに進め方を指導しておく。 ・アドバイスされたことは必ず確かめさせる。 ・意見のまとまらないグループには、観点を与え、さらに検討させる。 	
	4 グループ代表の作品を全体で確認する。 ・よいところ ・もっとよくするためのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・LANを使って全員に送信する。 ・アドバイスされたことは必ず確かめさせる。 ・話し合いが終わったものから印刷し、掲示する。 	
	5 自分の案内状を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の意見交換を参考にさせる。 自分達で作った案内状をより分かりやすいものに直すことができる。 〔案内状〕	
まとめ 7分	6 本時のまとめをする。 7 次時の活動を知る。 ・会場作りでの準備について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しカードに記入し、自己評価させる。 ・自分がかんばったことや友達のよさ友だちへの感謝を感想として書かせる。 ・感謝の気持ちをどのように伝えればよいのかという視点も提示し、次時までを考えてくることができるようになりたい。 	ふり返しカード

(4) 評価

評価規準 【情報活用能力】 〔方法〕	具体の評価規準		支 援
	十分満足		
・自分達で作った案内状をより分かりやすいものに直すことができる。 〔案内状〕	・友達の案内状のよさに気づき、それをいかして自分の案内状を直すことができる。		<ul style="list-style-type: none"> ・観点にしたがって見直させる。 ・アドバイスされたことを試させる。

きらめきタイム

「ふれ合い・学び合い・人間愛」

～ 12歳の自分発見～

月 日

ふり返しカード

番 名 前

(1) 友達のよいところを参考に案内状を
より分かりやすくしようとがんばったか。 A B C D

(2) 友達の案内状のよさに気づくことができたか。 A B C D

感想 (今日がんばったことや友だちのよさについても忘れずに書こう。)

総合的な学習 年間計画 単元名（ふれ合い・学び合い・人間愛～12歳の自分発見～【40】）
単元の評価規準

	評 価 規 準	評価の方法
課題設定の能力	12年間の自分を振り返り、これまでの自分の生き方を考えることができる。 人生の先輩達の生き方に関心を持ち、講演会に招待したい方をリストアップすることができる。 今までお世話になった人達に感謝の気持ちを伝えるためには、何ができるか考えることができる。	・学習カード ・行動観察
課題解決の能力	12年間の自分を振り返り、自分史を作ることができる。 講演会に招待したい人をリストアップし、友だち同士で意見交流をすることができる。 ゲストティーチャーを気持ちよく迎えるための方法を考えることができる。 今までお世話になった人達に感謝の気持ちを伝えようと、計画に沿って活動することができる。	・学習カード ・自分史 ・行動観察
情報活用能力	講演会に招待する人と交渉することができる。 自分の成長を振り返ることのできる作品や写真のような資料を集めることができる。 PCを使って講演会の準備・まとめをすることができる。	・学習カード ・PC操作の観察 ・行動観察
表現力	今までの小学校生活を振り返り、心に残っていることを作文に書き表すことができる。 講演会のチラシの内容の中に、自分なりの工夫をして作ることができる。 一年間の活動を振り返り、自分自身を見つめ、これからの生き方や考え方をまとめることができる。 今までお世話になった人達に感謝の気持ちを伝えることができる。	・学習カード ・文集 ・作文 ・行動観察

月	段階	時	学 習 内 容	具体の評価規準		支 援	備考
				規準との対応	十 分 満 足		
9	課 題 に 出 会 う	1 ・ 2	・12歳の自分について振り返る。	設	・今の自分を真正面から見つめ、 これからの夢、希望、願いを持つ ことができる。	・今の自分はどんな自分か、こん な風になりたい、こんなところ を伸ばしていきたいということ を具体的に考えさせる。	学習カード
		3 ～	・自分史を作る。 *計画を立てる 2	設	・生まれてから現在至るまでに、 たくさんの人達と自分が関わっ	・家の人と協力しながら、生まれ た時から今に至るまでの出来事を	学習カード

5		5	* 作る	1・秋休み		て、影響を受けてきたことに気づくことができる。 ・12年間の自分を振り返り、自分の年表を工夫して作ることができる。 ・自分の成長が分かるような作品や写真を集めることができる。	年表にまとめさせる。 ・自分作った作品や幼いときの写真を用意させる。	年表(アルバム作り)
秋休み		5・秋休み			解 情			
9	課題をいただく	6~10	・講演会にお呼びしたい人をリストアップをし、ミニ討論会を開く。 * 計画 3 * 討論会 1 * 決定 1		設 解	・「人」に興味を持ち、進んでリストアップすることができる。 ・だれがどんな理由でリストアップしたか相互交流し、自分のリストアップした人との共通点を考えることができる。	・どんな人に出会いたいのか具体的に考えさせる。 ・リストアップの例を示し、イメージを持たせる。(あこがれの人、地域にいて頑張っている人など)	【人材バンク】 参照 学習カード
10		11~18	・講演会を開こう。 * 事前準備 5 * 講演会 2 * まとめ 1		情 解	・講演会にお呼びしたい人を話し合い、交渉することができる。 ・ゲストティーチャーを気持ちよく迎えるための方法を考え、積極的に準備することができる。	・講演会がスムーズに進むように事前に準備、練習などをさせる。 ・講演会の人選を通して、人により積極的に関わっていこうとする態度を養いたい。そのために、その人の仕事の内容やその仕事につくまでの過程などを調べさせる。 ・チラシに記入する項目について確認し、作らせる。	学習カード
12					表 設	・講演会のチラシの内容の中に、ゲストティーチャーに対する自分の思いが伝わるように作ることができる。 ・講演会を通して、ゲストティーチャーと自分の考え方との違いに気づくことができる。	・講演会を通して、実際に自分が出会いたい人のイメージをつかませる。	
11	活動・体験する	19・20	・自分を再発見する。		設	・今の自分と4月の自分を比べ、自分がどう変化したか気づくことができる。	・4月の自分と比べ、半年で自分が何を学んだか、どのように変わったか、自分自身を見つめさせる。 ・家の人、友達、出会った人、先生から評価をもらい、周りの人から見た自分の成長に気づかせるようにする。	学習カード
		21	・卒業論文を作り、発表する。		表	・講演会や自分再発見を通して、	・人と出会ったことで、自分がど	作文

12		~ 25		自分が関わった人の生き方や自分が触発されたこと、これからの自分に生かしたいこと等を発表内容に盛り込むことができる。	のように考え、これからどう自分の中で生かしていくかをまとめ、提言する場を設定する。		
		26 ~ 30	・卒業文集を作る。	表	・今までの小学校生活を振り返り、心に残っていることを、生き生きと作文に書き表すことができる。	・自分史から、心に残っている出来事をいくつかピックアップさせ、作文の構成を考えさせる。	学習カード
11	1 ・ 2 広 げ る K	31 ~ 35	・今までお世話になった人達に感謝の気持ちを伝える計画を立てる。	設	・今までお世話になった人達に感謝の気持ちを持って、自分たちに何ができるのか、具体的に考え、計画を立てることができる。	・今までにどんな人達にお世話になったのか、どんなことをしてあげられるだろうか、考えさせる。	学習カード
		36 ~ 40	・今までお世話になった人達に感謝の気持ちを伝える。	解 表	・今までお世話になった人達に感謝の気持ちを伝えようと、計画に沿って、自主的に活動できる。 ・今までお世話になった人達へ感謝の気持ちを言葉や文字で表すことができる。	・何のための活動なのか考えさせ、計画の内容を確認させながら、活動できるように支援する。 ・どんなことでお世話になったのか、友だちと相談しながら考えさせる。	学習カード